

# BASF自動車用OEM塗料 カラーレポート2020

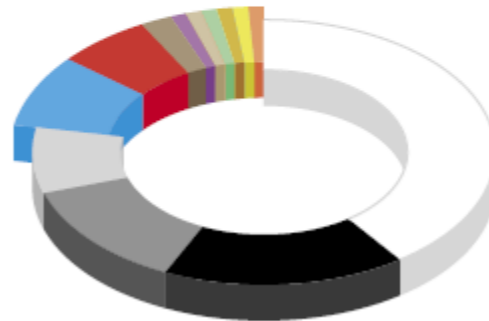


# 2020年を彩った、より幅広い有彩色

## グローバル

### Overview

○ White 40%	● Blue 8%	● Beige 1%
● Black 17%	● Red 6%	● Green 1%
● Gray 13%	● Brown 2%	● Gold 1%
● Silver 8%	● Violet 1%	● Yellow 1%
	● Orange 1%	



2020年が例年とは異なる、異例の年だったことは間違いありません。自動車のカラーパレットも少し違った方向に動き出し、より幅広い有彩色が世界中の組み立てラインから誕生し始めました。

一部の地域ではブルーやイエローのような多様な色が人気の一方で、世界の他の地域ではレッドやバイオレットが無彩色のリードを徐々に奪いつつあります。カラー領域の拡大により、2019年よりも全体のカラー分布が拡張しました。

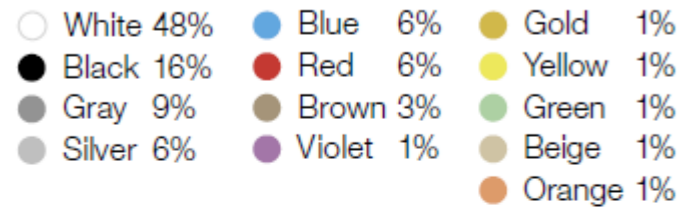
カラー傾向の変化にもかかわらず、ホワイト、ブラック、シルバー、グレーといった無彩色はおなじみのパターンをたどり、生産車の大半に塗装されています。数年前からそうであったように、ホワイトは今でも世界中で最も人気のある自動車の色です。クラシックで時代を超越した美しさを持ち、環境とハイテクの両方につながります。

このレポートで引用しているデータは、過去数年に比べて自動車の総生産台数が減少していることを示しています。これには、自動車メーカーが新型コロナウイルスのために、操業停止を余儀なくされた時期も含まれます。世界的な感染は自動車業界と世界に、深い影響を及ぼしています。

# 世界各国の有彩色の状況

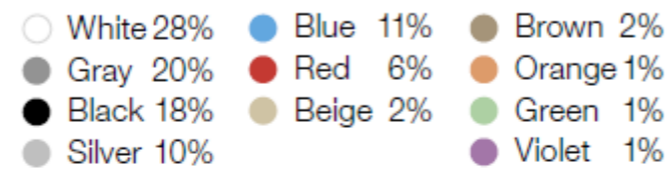
## アジア 太平洋

Overview



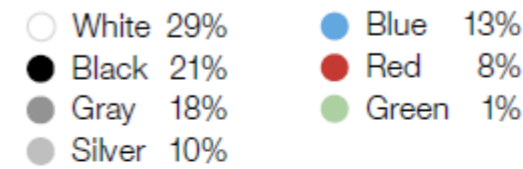
## EMEA

Overview



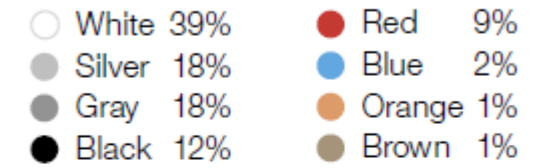
## 北米

Overview



## 南米

Overview



全体の数は多くはありませんが、ブラウン、グリーン、バイオレットの人気は一貫しています。これらのカラーが、最も人気のあるホワイトに挑むまでには長い時間がかかりますが、現在のところ、これらがアジア太平洋地域のカラーに圧倒的な多様性をもたらしています。

2020年にOEM自動車メーカーが使用した色は1,000色を超え、そのうちEMEAでは160色がブルーで、最も人気のある有彩色となっています。その他の有彩色も、特に市場の成長セグメントである小型SUVにおいて、人気が高まっています。

ブルーの色合いはよりエレガントであると見なされ、これまでベージュやブラウンを選んでいたであろう購入者は、ブルーやグレーに移行しているようです。北米ではベージュやブラウンがリストから外れています。また、ブルーがレッドを抜きました。

世界の他の地域で非常に人気のあるレッドやブルーのような色は、南米では、特にスポーティーな自動車で個性を表現しようとしている自動車購入者の間では、依然として特別なカラーです。全体的に南米市場は他の地域に比べて、やや保守的です。

# 日本における状況

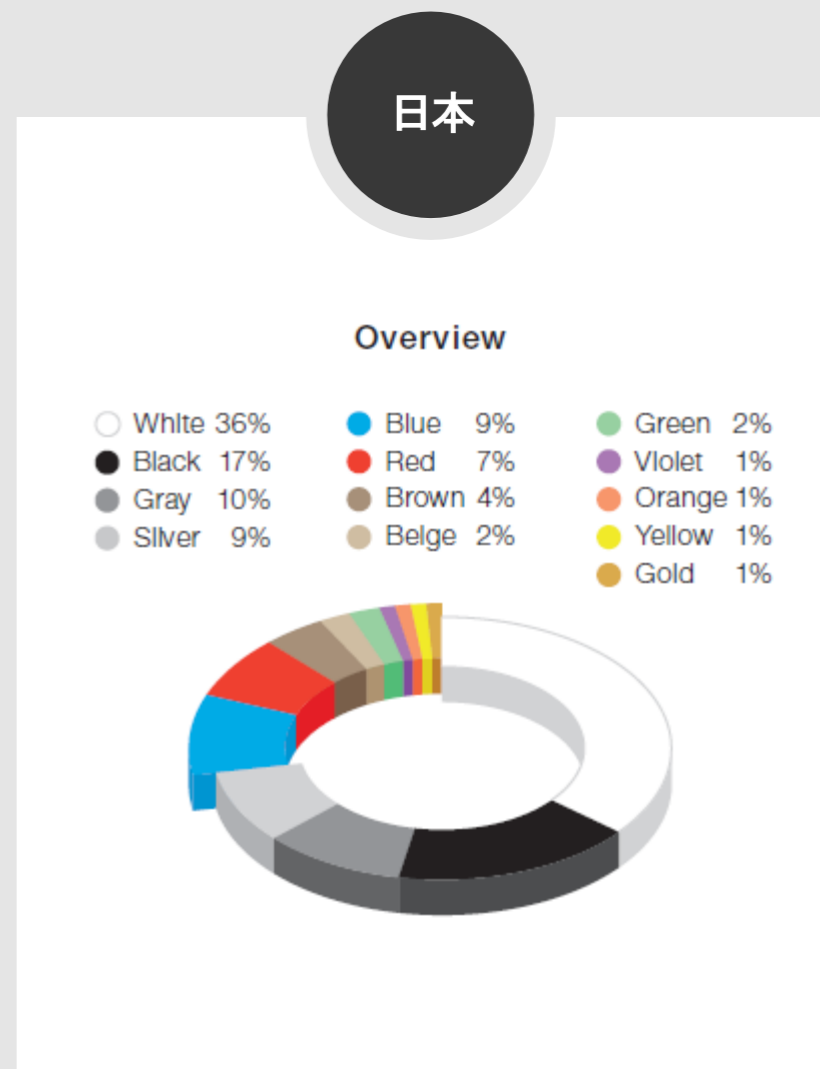
## 日本は、アジア太平洋地域の中でもっともカラフルな国

日本の無彩色に対する有彩色の比率は、アジア太平洋地域で最も高くなっています。ベーシックおよびサブコンパクトから、ラージおよびラージプラスまで、市場のすべてのセグメントにおいて、日本の独自性とカラフルな傾向を反映して、有彩色が一定量見られます。

すべての有彩色の中で、ブルーが最も人気があります。それは世界の嗜好を反映しています。高彩度で透明感のあるブルーからグレーがかった落ち着いたブルーまで、さまざまな色合いとエフェクトを持っており、日本の自動車メーカーは、これまで以上に多くの選択肢を顧客に提供しています。

各色の人気にそれほど大きな変化はありませんでした。注目すべきは、色相の多さです。日本の自動車のカラーズペクトルでは、ブルーの次にレッド、ブラウン、ベージュ、グリーン、ゴールド、オレンジ、イエロー、バイオレットと顕著な数で現れています。これは、他のほとんどの国よりもバリエーションが豊富だということを示しています。

無彩色系の色が依然として市場を支配しています。最も人気のない無彩色であるシルバーでも、ブルーと同等の人気があり、そこから無彩色の数値が上がっていきます。




Japan

## トレンドを把握する力と 革新的なカラーコンセプト

BASFのコーティングス事業本部は、素材や色のトレンドを 非常によく理解しており、この知見を将来の自動車市場で重要な役割を果たす色を予測するために活用しています。コーティングス事業本部のデザイナーは、毎年、3-5年先の自動車の色に影響を与える世界的なトレンドと文化的な変化についての広範な調査と詳細な分析に基づいた、新色を含む「自動車のカラー トrend予測」を発表しています。また、カラーラボの経験豊富な専門家とともに、革新的で創造的な色をデザインするだけでなく、それらを適切な塗料に変換するのに必要な知識を有しています。

# Contact



Communication North America  
Alan Baker  
[alan.baker@basf.com](mailto:alan.baker@basf.com)

Communication EMEA  
Joerg Zumkley  
[joerg.zumkley@basf.com](mailto:joerg.zumkley@basf.com)

Communication South America  
Daniela Santucci Martins  
[daniela.santucci@basf.com](mailto:daniela.santucci@basf.com)

Communication Asia Pacific  
Tanya Tian  
[tanya.tian@basf.com](mailto:tanya.tian@basf.com)

© 2021 BASF Coatings GmbH — Glasuritstraße 1 — 48165 Münster — Germany  
[www.basf-coatings.com](http://www.basf-coatings.com) — [info-coatings@basf.com](mailto:info-coatings@basf.com)

Source: The color distribution referred to in the BASF Color Report 2020 for Automotive OEM Coatings was calculated by BASF's Coatings division on the basis of the available information regarding global automotive production and paint application to passenger cars.